

特定非営利活動法人 日本免疫学会
Tadamitsu Kishimoto International Travel Award for the 15th ICI
研究発表報告書

申請者氏名	出 末 隼 人	会員番号	0033472
申請者の所属・職名	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 免疫アレルギー学分野 修士課程2年		
出席会議名	15 th International Congress of Immunology (ICI) / MILAN, ITALY / AUG 22-27 / 2013		
発表論文タイトル	Basophil-derived mouse mast cell protease 11 is involved in the development of IgE-mediated chronic allergic inflammation		

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award for the 15th International Congress of Immunology (ICI)を賜り誠にありがとうございました。

本学会は3年に一度開催されており、今回は2013年8月22日から27日までの6日間、イタリアミラノで開催されました。私は、現在取り組んでいる研究の成果を「Basophil-derived mouse mast cell protease 11 is involved in the development of IgE-mediated chronic allergic inflammation」の演題名で口頭発表を行いました。

これまでに好塩基球が慢性アレルギー炎症の引き金となるということは当研究室において明らかにされておりましたが、どのようにして炎症を引き起こすのかということは分かっておりませんでした。今回、好塩基球由来プロテアーゼ mouse mast cell protease 11 (mMCP-11)のこの炎症への関与を mMCP-11 欠損マウスを用いた研究により明らかにし、この因子が慢性アレルギー炎症にエフェクター分子として大きく寄与していることを突き止めました。この結果は、好塩基球由来のプロテアーゼが皮膚炎症の誘導において重要な役割をしていることを示した初めての報告であったため、世界中の多くの研究者から興味をもっていただき、様々な議論を重ねることが出来ました。

修士課程という早い時期に今学会でこの研究成果を世界を舞台に報告させていただけたこと、そして、発表以外の場面でも日本を出て海外の多くの方々と触れ合えたことで普段の研究では味わえない新鮮な刺激を受けました。さらに、世界中の著名な研究者たちから最新の研究データが報告されたことにより免疫学研究の最新知見を直に得ることが出来たことも大きな収穫となりました。その一方で、世界の広さを目の当たりにして自身の視野の狭さや未熟さを身をもって痛感し、私にとって、この学会に参加して感じたことすべてが今後の好塩基球研究に向けての大きなステップアップとなりました。

今後、これら今学会で学んだこと全てを糧に、より一層研究に邁進していく所存でございます。そしてさらにこの研究を発展させることによって、ヒトにおける慢性アレルギー炎症の治療へ応用出来たらと強く願っております。末筆になりましたが、この度当 Awardにご選出頂きましたおかげで、上記のような大変貴重な経験が出来ました。岸本忠三先生をはじめ日本免疫学会の役員の方、事務局の方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。